



地域支援グループの創設およびその活動報告と課題について ～商業施設内の空き店舗を利用した健康増進啓発活動～

○二見 信次（理学療法士）、万田 祥秀（作業療法士）

医療法人社団 生和会 周南リハビリテーション病院

【はじめに】

2018年9月、「商業施設内の空き店舗を利用した健康増進啓発活動」について、当院より地域包括支援センターに提案。市役所・社会福祉協議会・地元の大学等からも協力者を得て、「地域のみんなで安心と生きがいをつくり出す」という理念のもと「Keep Habilitation in Shunan! 実行委員会」を立ち上げ活動を行なっている。

【目的・方法】

「地域住民の『自助』『互助』の意識を高める。」「地域住民の心と体の健康を維持できるような働きかけを行う。」「地域住民と共に安心・生きがいを感じることができる環境・場所・サービスをつくりだす。」を目的とし、イオンタウンが毎月15日に開催するG.G感謝デーに合わせて、空き店舗を使用して健康増進啓発活動を開催している。

【ここまで結果】

2019年3月～6月まで4回の開催で、地域住民の参加が延べ385名、スタッフ・ボランティアの参加が延べ100名を超える。

【考察】

この活動は、地域住民の健康への意識を向上させるきっかけになり得る可能性はある。しかし、重要なのは健康増進活動の「実行」「継続」の段階にどのように関わっていくかである。医療・保健の知識・技術をもつ専門職やそれを担う関係機関がそれぞれの役割をどのように捉え、どのように繋がっていくかが鍵となる。自治体や公的機関、民間の病院や企業が協議を重ね、医療・保健に関わる私たちがまずは意識改革することが重要なのかもしれない。